 ©2012 筑波大学生物学類

特集：キャリア支援

社会人１年生から就職活動準備中の皆様へ

伊藤　亜友美（2009 年 3 月生物学類卒業、2011 年 3 月生命環境科学研究科博士前期課程修了）

①就職活動を終えての感想

就職活動中、「就職活動はお見合いのようなもの。必ずご縁のある企業がある」と、とあるベンチャー企業の経営者に言われた事がある。その時は、その言葉を聞いてもあまりピンとは来なかったが、現在勤める企業に内々定を貰った際、心から「その通りだ」と感じた。現在私が勤める「株式会社 AGREX」から内々定を貰ったのは 7 月半ば。会社説明会に参加したのは 6 月だった。今となっては、もし、春に他社から内々定を頂いていたら、アグレックスに出会うことは無かっただろうと思うと、その時期に決まらなくて良かったとさえ思う。IT 企業でありながら、その強みを活かして CRO 事業（※）を行っている点に、今後の医薬品業界での重要性を感じた事もあるが、私にとって選考過程で出会う社員の誰もが「こんな社会人になりたい、この人達と一緒に働きたい」と思える方々だったことが、入社を決めた一番の理由である。幸いアグレックス側にも良い評価を頂き、当初、既に CRO 職の採用枠は全て埋まっており、一度はエントリーする事さえ断られたにも関わらず、最終的には採用枠を増やしてまで私を採用してくれた事に何らかの縁を感じずにはいられない。現在は、一昨年にアグレックスの CRO 部門と子会社であった「クロノバ株式会社」が合併して誕生した「AC メディカル株式会社」にて、ALS（筋委縮性側索硬化症）とパーキンソン病の治療薬開発に携わっている。

※CRO（Contract Research Organization）：医薬品開発において、製薬メーカーが行なう治験に関わる様々な業務の全てまたは一部を代行・支援する業務。CRO が治験を担う割合は、日本では 20%程度だが、アメリカでは半数に上り、今後日本でもその水準に近づいていくと言われている。

②就職活動前に普段から心がけておくべき準備

業界を問わず、様々な社会人（OB・OG、人事、親等）に話を聞く中で「自分が今後 40 年間働いていく上で、どのような働き方をしたいのか」を明確にする事だと思う。そうすれば、自ずと自分自身も見えてくる。私の場合は、①社員の雰囲気が良いこと、②中小企業であること、③時代の変化に対応できる柔軟さがあること、④結婚・出産を経ても働き続けられること、を重要視して就職活動を行った。

③生物学類の教育（遍く生物学教育）を受けた学生が受け入れられやすい業界および職種。または、受け入れられにくい業界および職種に対する考え

生物学系出身者は、食品、医薬品、化粧品等、理系の中では比較的幅広い分野で活躍する事ができる。しかし、食品業界においては農学系出身者が、医薬品業界においては薬学系出身者が、化粧品業界においては化学系出身者が中心となるため、企業において生物学系出身者が主役になる機会は非常に少ない。その中で、自分が「何をしたいのか」「何ができるのか」「世の中にどう貢献できるのか」を考えることが大切だと思う。

④就職活動中にとった戦略について

長所だけでなく短所も含め、ありのままの自分で面接に臨むこと。本当の自分よりも背伸びをして内定を取ったとしても、それは偽った自分に出された内定であり、入社後、入社前に抱いていたイメージと現実のギャップに戸惑ったり、周りとの人間関係に悩むリスクを上げることに繋がる。人事は、その人の能力だけでなく、採用した際の人材配置や、職場の雰囲気に馴染むか否かも併せてみている。よって、ありのままの自分で面接に臨むことが、結局は自分にあった職場に出会う一番の近道である。

⑤生物学類教育に望むこと

筑波大学は、そもそも他大学に比べ、大学から手に入れられる情報量が非常に少ない上に、特に生物学類は、他学類に比べても就職活動に関する情報を手に入れにくいと感じた。そのため、「つくば生物ジャーナル」だけでなく、学類や研究科側で「卒業生から生の声を聞く機会」を設けても良いと思う。僭越ながら、私も「リクナビ 2013 人事ブログ」に、一新入社員として AC メディカルについての記事を書いている。微力ではあるが、少しでも就活生が志望企業を決める際の助けになれば幸いである。

＜AC メディカル株式会社「人事ブログ」＞
http://job.rikunabi.com/2013/company/blog/r837130081/

Communicated by Jun-Ichi Hayashi, Received February 28, 2012.